

## 指示詞型フィラーの用法についての日中対照分析： 日本語「あのー」と中国語「那个 nage」の機能を中心 に

葛, 欣燕

九州大学大学院地球社会統合科学府 : 博士後期課程

松村, 瑞子

九州大学大学院言語文化研究院 : 教授

<https://doi.org/10.15017/1804173>

---

出版情報 : 言語文化論究. 38, pp.41-58, 2017-03-03. Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :



# 指示詞型フィラーの用法についての日中対照分析

## ——日本語「あのー」と中国語「那个 nage」の機能を中心に——

葛 欣燕<sup>1</sup>・松村 瑞子

### 1. はじめに<sup>2</sup>

「あのー」「ええと」「なんか」「まあ」などの用語は様々な名称で呼ばれてきた。国語学研究においては、これらの表現を「品詞」として取扱い、山田（1936）は「感動副詞」と、佐久間（1943）、橋本（1948）は「感動詞」と名付けた。これらの文法内での研究に対して、これらの用語の談話における機能に焦点をあてた研究が、近年盛んに行われるようになった。これらの機能を、小出（1983）は「言いよどみ」と呼び、山根（2002）定延（2010）は「フィラー」と呼んだ。フィラー<sup>3</sup>と呼ばれる用語は、感動詞、指示詞、副詞に由来するものが多く、本来の意味が希薄になっているため、意味的には発話全体に影響を及ぼすことは少なく、また構造的にも統語的に制限されないため、発話文のどの位置に出現することもできる（山根、2002；小出、2009など参照）。一見すると発話内容と無関係に見えるフィラーも、実は談話において発話内容調整と対人関係調整という重要な役割を担っている<sup>4</sup>。

日本語にも中国語にもフィラーは存在しているが、その用法には異なる部分も多い。上述したように、フィラーは意味論的意味が希薄であり、さらに談話中における用法の相違は十分には記述されていないため、フィラーを外国語に翻訳することは難しく、また外国語におけるフィラーの用法を習得することはかなり難易度が高いものである。そこで、本研究では指示詞としての用法においては意味が対応しており、さらにフィラーの中でも特に使用頻度が高い「あのー」と「那个 nage」に焦点を絞ってその機能を対照させ、その結果を日本語教育・中国語教育に应用するための基礎研究としたい。

### 2. 先行研究及び本研究立場

フィラーの研究は数多く行われているが、紙幅の都合上、ここでは本論文に最も関連すると考えられる先行研究にのみ言及する。

#### 2.1 「あのー」と「那个 nage」と指示詞との関連性についての先行研究

まず、日本語指示詞は「コ・ソ・ア」三系列であり、中国語指示詞は「这」と「那」の二項対立である。指示詞の用法から見ると「那」は「ソ・ア」に対応している。本稿では「那个 nage」と「あのー」を取り上げて議論する理由を以下に示す。

小出（2009）は、指示詞の「コ・ソ・ア」は、フィラー化によって命題内から外に出て、命題構成要素から発話行為と関係するものになったと述べている。劉（2009）は、「这个 zhege」と「那个

nage」が指示代名詞的用法以外に談話標識としても使われている、と指摘した。フィル儿的用法から見れば「その一」の機能は現場指示詞「ソ」の聞き手関与のソと中間距離のソから継承され、後続する発話内容が聞き手に関与するものであること、あるいは話し手の間接経験領域に属する（話し手と聞き手両方に関与しない）ものであることを示す。「あの一」の機能は現場指示詞「ア」の長期記憶指示と関連しており、後方発話内容が話し手の直接経験領域に属するものであり、あるいは話し手が自分の発想から発話を展開し、探索行為中であることを表している<sup>5</sup>。劉（2009）は、「这个 zhege」は近指代名詞からフィル化され、後続する発話内容が聞き手の認知領域と近いときに使われる一方、「那个 nage」は遠指代名詞からフィル化され、聞き手の認知領域から遠いときに使われる、と述べた。つまり、フィル的用法から見ると、「その一」の機能は「那个 nage」の機能とは対応していないことが分かる。筆者自身の調査でも同様の結果が見られたため、本稿では、「あの一」と「那个 nage」のフィル的用法についてのみ日中対照研究を行う。

## 2.2 「あの一」と「那个 nage」の機能についての先行研究

定延・田窪（1995）は、談話管理の視点から、「あの（一）」は、話し手が言語編集（名前の検索と適切な表現の検討）という心的操作を行っている間に発話される心的操作であると述べている。田窪（1994）は、「あの一」は聞き手に向けて、適切な表現形式を検索/作成する時に使用される、また、聞き手への配慮や話し手の知識状態や心的状態の演出が「あの一」の発話を動機づけることもある、と述べた。会話分析の視点から、西阪（1999）は、「受け手に合わせたデザイン」という観点から、話し手は自分の発言が適切であるかどうかの不確定であるとき、また当該の相互行為において特定のことがらを「受け手に合わせてデザイン」しながら適切に語っていくことに困難があるとき、その発言を「あの一」（など）によって有標化する、と指摘した。一方、劉（2009）は、談話標識の「那个 nage」を含む用例を観察した上で、その機能を大きく「テキスト構成的機能」と「対人的機能」に分けた。さらに、「テキスト構成的機能」を「話題管理」「修復・訂正」「言い淀み」に、「対人的機能」を「プレファレンス」「話者交替」「呼びかけ」に分類した。劉（2009）は、当該の話題が発話者の認知傾向から遠いときには、しばしば「那个 nage」によって開始されると述べた。また、「那个 nage」は「話題開始」「発話権逆接」「発話権維持」「発話権奪取」という機能を持っていると指摘した。

## 2.3 本研究の立場

これらの先行研究の結果を鑑みれば、「あの一」は、「那个 nage」のように、表現形式の検索や聞き手への配慮の発話以外の様々な言語環境には現れにくいのではないかと考えられる。中国人日本語学習者<sup>6</sup>が日本語を話す時に不必要な「那个 nage」をしばしば入れてしまうことがあるが、これは上記の先行研究で述べられた日本語と中国語の用法の相違からくるのではないかと推測される。そこで、本研究では意味的に対応している「あの一」と「那个 nage」がフィルとして使われる際にどのような違いをもつかについて明らかにすることを目的とする。

そこで、本研究ではまず日中会話データを基に「あの一」<sup>7</sup>と「那个 nage」<sup>8</sup>の会話における機能について記述を行い、両者の特徴を比較する。山根（2002）<sup>9</sup>のフィル機能に対する分類を援用することで、まず抽出された会話データを「情報処理能力表出機能」、「発話内容調整機能」、「対人関係調整機能」に分け、次に具体的な事例の各下位項目の役割について詳細に分析する。その後、各機能の下位項目別に「あの一」と「那个 nage」の出現数とその割合を算出する。最後に、「あの一」と「那个 nage」の使用実態を比較対照する。

### 3. 分析方法

#### 3.1 データ

日本語データには『徹子の部屋』<sup>10</sup>、中国語データにはインタビュー番組『楊瀾訪談録』<sup>11</sup>の録画を文字化して用いた。『楊瀾訪談録』と『徹子の部屋』のインタビューの形式は類似しており、基本的には司会者1名とゲスト1名の形で談話が進められている。それぞれの番組の1回あたりの放送時間は約30分で、延べ時間数約120分である。日本語データと中国語データの内訳を以下の表1と表2に示す。

表1 日本語データの内訳（『徹子の部屋』）

資料	ゲスト (略)	性別	年齢・上下 <sup>12</sup>	職業	発話数 <sup>13</sup>	放送日
1	中原ひとみ (NH)	女	76・同	役者	621	2013/01/22
2	工藤夕貴 (KY)	女	42・下	役者・歌手	451	2013/01/25
3	桂菊丸 (KK)	男	72・同	タレント	429	2013/04/03
4	ナオト・インティライミ (NI)	男	33・下	歌手	604	2013/01/14

表2 中国語データの内訳（『楊瀾訪談録』）

資料	ゲスト (略)	性別	年齢・上下	職業	発話数	放送日
5	周迅 (ZX)	女	38・下	役者	295	2012/05/25
6	巩俐 (GL)	女	49・同	役者	273	2014/05/04
7	韓寒 (HH)	男	24・下	作家・レーサー	245	2006/11/12
8	王健林 (JL)	男	61・上	企業家	354	2014/03/09

#### 3.2 コーディングの基準

本節では、まず「あのー」と「那个 nage」をコーディングする際の分類の基準を示す。先行研究をもとに、機能をまず「情報処理能力表出機能」、「発話内容調整機能」、「対人関係調整機能」の三つに大別し、その上で役割の違いから下位項目を立てた。

##### I 情報処理能力表出機能

定義：話し手が言語を編集し、情報を処理する心的操作に入っていることを表す<sup>14</sup>。

##### ① 言葉探し

長期記憶指示のアを継承し、探索指示用法が希薄になり、探索行為だけを表している<sup>15</sup>。

##### ② 記憶探し

過去経験したこと即ち長期記憶から思い出しつつ、発話を展開していく。話し手の直接経験領域<sup>16</sup>に属し、後続する発話内容が聞き手に関与していない。指示詞の用法を一部継承している。

##### II 発話内容調整機能

定義：発話の内容や構造などを調整する機能

##### ③ 言い換え

話し手がより理解しやすいように説明したい場合、フィラーによって換言する。フィラーの前

後の発話の意味は変わっていない。

④ 補足説明

先行発話をより詳しく表したい場合、フィラーによって、補足説明する。

⑤ 修復

話し手が言い間違えたことに気づき、フィラーによって、先行発話を一旦中断し、言い直すこと。先行発話は統語的にまだ文単位になっていない場合が多い。

III 対人関係調整機能

定義：対人関係を調整する機能

⑥ 注意喚起

確認要求をする前や、あるいは同意要求など聞き手に何かを質問する前に使われ、聞き手の注意を喚起する働きをしている。雰囲気を作り、唐突感を避けるために使用されるというものである。

⑦ 和らげ

聞き手の気持ちを損ねないことを優先的に考慮し、依頼、勧誘、不同意表示、問いかけの場合に、聞き手に負担を強いたり面子をつぶす恐れがある発話を和らげる。

⑧ ためらい

話し手が自分自身の気持ちを優先的に考慮し、フィラーを用いることによって、それを聞き手に察知させる。

4. 分析結果

4.1 「あの一」と「那个 nage」の使用率

まず、日本語「あの一」と中国語「那个 nage」それぞれの使用数が、総発話数に占める比率を表3に示す。

表3 「あの一」と「那个 nage」の使用数と使用率

	使用数	発話数	使用率 (%)
「あの一」	202	2105	9.59
「那个 nage」	47	1167	4.03

表3に示されるように、総発話数に対する使用率から見ると、「那个 nage」より「あの一」のほうがやや高いとは言え、あまり差は見られない。つまり、両言語における他の形態のフィラーと比べて、「あの一」と「那个 nage」の使用率はほぼ同じである。

4.2 機能別に見た「あの一」と「那个 nage」の使用の割合

次に、機能別に日本語「あの一」と中国語「那个 nage」の使用率を以下の表4に示す。

「発話内容調整機能」に関しては、「あの一」と「那个 nage」の割合はほぼ同様であり、使用率が最も低いことが分かった。また、指示詞の性質を継承した「言葉探し」「記憶探し」というような「情報処理能力表出機能」を持つ「あの一」と「那个 nage」が両言語ともに最も多く使われていた。つまり、言語編集と情報処理のための心的操作を表すというのは「あの一」と「那个 nage」の一般

表4 機能別に見た日本語「あの一」と中国語「那个 nage」の使用数と割合

機能	言語	日本語「あの一」		中国語「那个 nage」	
		使用数	割合 (%)	使用数	割合 (%)
情報処理能力 表出機能	言葉探し	88	43.56	30	63.83
	記憶探し	48	23.76	8	17.02
発話内容 調整機能	言い換え	2	0.99		
	補足説明	12	5.94	2	4.255
	修復	5	2.48	2	4.255
対人関係 調整機能	注意喚起	15	7.425		
	和らげ	17	8.42		
	ためらい	15	7.425	5	10.64

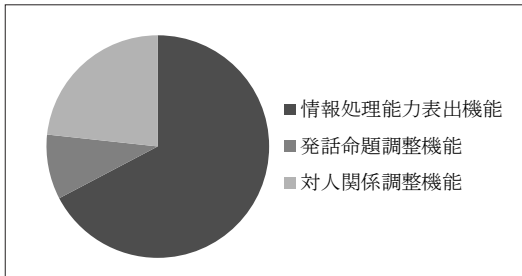


図1 機能別にみる日本語「あの一」の割合

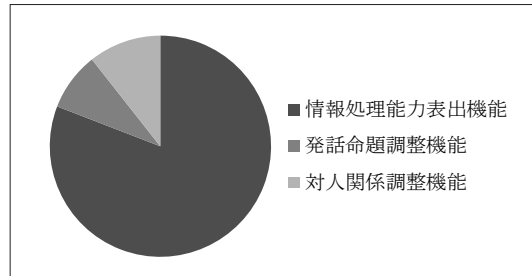


図2 機能別にみる中国語「那个 nage」の割合

的な機能と言えるだろう。さらに、「対人関係調整機能」の割合を見ると、「あの一」の使用率が「那个 nage」より約2倍高くなっている。その下位項目から見れば、日本語「あの一」は「注意喚起」「和らげ」「ためらい」がほぼ同様のバリエーションで使用されるのに対し、「那个 nage」は「ためらい」という役割しか用いられていない。この結果から、対人関係を調整するために、日本語母語話者は、「あの一」を用いることで、相手とのインターアクションを円滑に運び、相手への押し付けを回避し、相手の心情を考慮するような婉曲的な言い方を選択している、と言えよう。一方、中国語母語話者は「ためらい」だけを使うということから、相手の気持ちよりも、自分自身のプライバシーに配慮して、他人に対しては言いづらいこと、内容について多少の躊躇感を持っていることを聞き手に察知させようとしていると言える。

### 4.3 事例

#### 4.3.1 日本語の事例

本節では、日本語「あの一」の事例を観察し、それぞれの機能を細かく見ていく。

##### 4.3.1.1 情報処理能力表出機能

###### ① 言葉探し

長期記憶指示のアを継承し、探索指示用法が希薄になり、探索行為だけを表している用法である。2つ以上の「あの一」が連続して出現する場合、言葉を探しつつ、発話を展開していつている様子

がわかる。

断片 1 (資料 1 から)

- 01 KT: うん. で, 結婚なすったけどなかなかお子さんおできにならなくて, で恵まれて, そい  
じゃあもう.  
02 NH: はい. 40いくつで,  
03 KT: 40いくつで, 初産.  
04 NH: はい,  
05 KT: 初産.  
06 NH: ええ. だから, 結構難産.  
07 KT: あそうだったの.  
08 NH: はい.  
09 KT: 心配だったでしょう, 娘が.  
10 NH: そうですね.  
11 KT: ねえ, 子供産むなんて. あ, かわいい. まあね. 今おかあさんもこんなかわいいおりボ  
ンのようなものつけたりなんかしていいわよね.  
12 NH: はい.  
→13 KT: うん可愛いお嬢さま, 頭になんかつけて. この頃ほんとにこういういろんなものあるか  
らね. おもしろい. でもあれなんですって. あの, あの, 江原さんのことは, あれ, な  
んて呼ばせてるんだっけ.  
14 NH: じじちゃま.

1-10行目ではKTとNHはNHの娘の初産及び難産について話している。11-13行目ではKTが子供のリボンについて評価する。その後、13行目の「でもあれなんですって」の逆接続詞「でも」は、後続発話が先行発話と相反する事柄を述べることを投射するものとして使われるのではない。後続発話が先行発話と関連がないことから、この「でも」は話題転換の標識として用いられている。ここで注目すべきは、「でもあれなんですって」の直後の「あの、あの」である。これは、「あれなんですって」と共起することによって、「言葉探し」(word searching)という活動に従事していることが分かる。小出(2009)は、フィルター化した「あの」が指示機能から、探索行為だけが付随するものへ変化していると述べた。ここでは、「あのー」の「言葉探し」という機能は探索指示から一部継承されていると考えられる。

② 記憶探し

過去経験したこと、すなわち長期記憶にアクセスしつつ、発話を展開していく。話し手の直接経験領域に属し、後続する発話内容が聞き手に関係していない。指示詞「ア」の用法を一部継承している。

断片 2 (資料 4 から)

- 01 KT: でも途中で, どう, どういうわけで音楽の方にいったんですか.  
→02 NI: あの, 同じく, 中学二年生の時から,  
03 KT: ええ.

- 04 NI : 曲を作り始めていて、  
 05 KT : ええ。  
 06 NI : こうオリジナル曲を、  
 07 KT : ええ。  
 08 NI : で、気が付いたら高校一年の頭ではもう、その夢が、サッカーの夢と音楽の夢がこう入れ替わってたというか、それくらいやっぱ音楽の、あのー  
 09 KT : 魅力に。  
 10 NI : はい。取り憑かれてしまいました。

断片2の前の文脈では、NIは中学生の頃、サッカーに夢中であり、プロになるつもりであったことを語っている。1行目でKTは「なぜ途中で音楽の方向へ変わった」のかを尋ね、2行目でNIは「あのー」によって、一息入れて、それから語り始める。2-8行目ではNIが一気に情報を出すではなく、KTの反応(3、5、7行目)を待ちながら、情報を小出しにしていることから、NIは昔のことを思い出しながら話していることが窺える。「あのー」は「話し手が自分の発想から発話を展開することの前触れを」(小出2009:15)をしており、2行目の「あのー」は「記憶探し」という働きをしている。これは、Aの指示詞用法、すなわち長期記憶指示のAを継続している(小出2009)ともいえる。

#### 4.3.1.2 発話内容調整機能

##### ③ 言い換え

話し手は、聞き手がより理解しやすいように説明したい場合、「あのー」によって換言する。「あのー」の前後の発話が指している対象は変わっていない。

##### 断片3 (資料1から)

- 01 KT : 土屋さおりさんって、あの、お嬢さん。女優さんもしてらっしゃいましたよね。  
 02 NH : はいしてました。昔ね。  
 03 KT : お孫さん。でもあなたの御主人の江原真二郎さんもお変わりのない方で、この方もね。  
 04 NH : そう。  
 05 KT : こうやって拝見すると。  
 06 NH : そうですか。  
 07 KT : ねえ。ほんとに。もうこの方お忙しい方で、今舞台しょっちゅう出てらっしゃる  
 08 NH : はい。  
 09 KT : 方なんで。でお孫さんはあどけなく、あんなふう。でもやっぱり、目の形なんかあなたそっくりね、なんかね。  
 10 NH : そうですか。  
 →11 KT : う : ん、すごいかわいい。でもお嬢さんは、あの、さおりちゃんは？  
 12 NH : ええ。  
 13 KT : 二歳くらいからずっとコマーシャルとかなんか出てらしたんでね、  
 14 NH : そうです。はい。

断片3で、二人はNHの娘、夫そして孫のことについて語っている。1と11行目の「あのー」の前

後の名詞は同様に NH のことを指している。ともに「あの」によって、少し間を置いてから言い換える。ここで、仮に「あの」を「えーと」「なんか」「まあ」などに変えると不自然に感じられる。言い換えという発話環境の 1 と 11 行目においては、「あの」が他のフィラーより相応しいと思われる。

#### ④ 補足説明

以下は、先行発話をより詳しく表したい場合に、「あの」によって補足説明している例である。

#### 断片 4 (資料 1 から)

- 01 KT: あ, 三歳の時も七歳の時も. これ沙織ちゃんは何歳の時かしらね?  
 02 NH: これ七歳ですね.  
 →03 KT: ええ. でもやっぱりね, 浦野さんのお着物, あの, 色がね, すごくきれいって  
 04 NH: そうですね.  
 05 KT: 有名だったけど, あ, そういういいお着物だったんね, でもそれがあの, 孫のあの, 七五三にもなるっていう.  
 06 NH: 代々つめ,  
 07 KT: そう. それでその子七五三が終わったらほんとにその子の, 孫のお着物になるじゃない?  
 08 NH: そうですね.

断片 4 の直前の話題は、NH が孫の七五三はきちんと着物を用意するということについてである。1 - 8 行目において二人は一緒に写真を見て、KT がある有名な着物作家の着物を褒めた後 (3 行目)、再びその着物が有名であることを評価し、孫の着物にもなりうる (5、7 行目) というように発話を展開していく。ここでは 3 行目の「あの」の前後の名詞に注目したい。ここで「お着物」と「色」は、断片 3 で述べた「お嬢さん」と「さおりさん」のような同一指示関係ではなく、主題 - 題述関係である。つまり、「あの」の直後の名詞は先行名詞に対し補足説明をしている。

#### ⑤ 修復

「あの」によって先行発話を一旦中断し、修復する場合の用法である。先行発話は統語的にまだ文単位になっていないことが多い。

#### 断片 5 (資料 1 から)

- 01 KT: でもサクラがそんな風に咲くなんてね.  
 02 NH: はい.  
 03 KT: やっぱ土が良くないとね.  
 →04 NH: そうですね, だから, あのお部屋が, あの二階がりビングなんですけど, そこからちょっとお花見できるんですよ.  
 05 KT: あら, じゃあもうしばらくそこにいらしたら?  
 06 NH: その方がいいかも分かんないですね.  
 07 KT: ちょっとここで.

断片 5 の前の談話は、NH が古い家の庭に桜とバラを植えたため、そこから引越したくなくなったという内容である。1 - 3 行目で、KT は桜がそのように立派に咲くのはやはり土がいいからで

あると語り、NH はあいづちを打ってから話を展開していく（5行目）。下線の「あの」の前後の発話において、「あの」の直後の発話は先行発話を修復していることが分かる。修復した対象については2つの可能性がある。1つ目の可能性は、NH は「お部屋の二階がリビングなんですけど」と言いたかったところを、「お部屋が」を先に言ってしまい、修復後の発話「二階がリビングなんですけど」の前に何か挿入しないと、発話全体が若干不自然になるため、「あの」を挟み込んだというものである。二つ目の可能性は、「二階がリビングなんですけど」と言いたかったが、「お部屋が」と言ってしまったため、「あの」によって言い直したというものである。このような挿入は、聞き手の理解の助けになると思われる。

#### 4.3.1.3 対人関係調整機能

##### ⑥ 注意喚起

確認要求をする前や、あるいは同意要求など聞き手に何かを質問する前に使われ、聞き手の注意を喚起する働きをしている。唐突感を避けるために使用されるというものである。

断片6（資料1から）

- 01 KT: ねえ、おぐし、いつもそんな風？すごい素敵なお色。うん。  
 02 NH: もうね、一年経つんですけど、  
 03 KT: ええ、ええ。  
 →04 NH: あの、白髪がどうしても、あるじゃないですか。  
 05 KT: うん。  
 06 NH: で黒く染めるのも、毎月毎月行くのもめんどくさいから、  
 07 KT: うん。  
 08 NH: で白っぽくしようと思って。  
 09 KT: うん。  
 10 NH: 白髪っぽくしたんです。  
 11 KT: うん。  
 12 NH: で、役はどうせおばあさんしか来ないし、  
 13 KT: あそうなの。うん。  
 14 NH: はい、だからちょうどいいやと思ってね、一年経つんですけど。白くすれば、する、してまたね、結構大変なの。  
 15 KT: そうそれまた、それを染めるのもまた  
 16 NH: また大変なの。  
 17 KT: うん。  
 18 NH: なかなかいい色にね、ならない。  
 19 KT: でもすごくきれい。

断片6はインタビュー番組の冒頭である。1行目でKTはゲストNHの髪の色について褒めることから談話を開始する。6-19行目、NHはKTに対して、長らく白髪にしており、黒く染めない理由を語っている。NHはその理由を説明する前に、4行目で聞き手KTに確認を求めており、後続のKTの「うん」（5行目）はあいづちというよりむしろ確認要求の応答となっていると思われる。つまり、会話参加者は4、5行目でお互いに共同認識を確立してから、次の理由説明を順調に

進めてっているのである。言い換えれば、4、5行目のやりとりは一種の準備活動である。ここで注意したいのは、4行目の、確認要求の前置き「あの」は、聞き手に問いかける前に聞き手の注意を引くという役割を果たしているということである。ターン維持のためにこのような確認要求をする前や、あるいは同意要求など聞き手に何かを質問する前に、話し手が「あの」を挿入して聞き手の注意を喚起する事例がしばしば観察される。紙幅の都合上、他の事例の詳細な分析は省略する。

#### ⑦ 和らげ

聞き手の気持ちを損ねないように、依頼、勧誘、不同意表示、問いかけをしようとする場合に、聞き手に負担を強いたり、面子をつぶす恐れがある発話を和げるのに用いられる。

#### 断片7（資料1から）

- 01 KT：お嬢さんからお手紙のやりとりとかしてらっしゃる？  
 02 NH：あんまり手紙はないですね。  
 03 KT：ほんと。  
 04 NH：メールとか。  
 →05 KT：そうね、サンキューっていうカードです。ちょっと、あのいいですか？サオリさんご紹介して、いい？  
 06 NH：はい。  
 07 KT：マミーへ。あ、ほんとだ、マミーだ。「マミーへ。慌てないで、たまにはゆっくり、無理しないでね。なんでもない毎日が、ホントはとっても幸せだってこと。ありがとう。いつも感謝しています。さおり。」  
 08 NH：はい。ありがとう。

1-4行目では、KTの娘と手紙のやりとりをしているかという質問に対し、NHは手紙は少なくメールで行くと答えた（4行目）。5行目でKTは、NHの娘からNHに対する手紙をこの場で読み上げていかどうかを本人に許可を求めている。つまり、1-4行目は5行目の許可求めの予備活動であると言える。5行目でKTが「いいですか？サオリさんご紹介して。いい？」という質問を出す前に、「ちょっと」と「あの」が前置きとして使われている。岡本・斉藤（2004：70）は、「ちょっと」と類似した意味をもつ「少し」を用いることによって、文内容を軽減し、婉曲的な表現に変える働きがあると述べている。「ちょっと」と共起する「あの」も、対人的配慮という働きをしていると推測できる。つまり、ここでは、「あの」と「ちょっと」によって、聞き手の負担を和らげようとしていると言える。

### 4.3.2 中国語の事例

#### 4.3.2.1 情報処理能力表出機能

##### ① 言葉探し

#### 断片8（資料5から）

- 01 ZX 因为是英文，然后呢，我的那个发音，就是说，周迅那个发音，就在外国人来讲，很难发  
[出来]  
 02 YL [很难发] 对  
 03 ZX 就说我的时候，根本就，

- 04 (0.3)  
 05 YL [听不到是谁, hhhh]  
 →06 ZX [听不, 听不懂, 对对对] 我就还在那儿待着呢, =  
 [然后] 那个, 额, 就我的翻译就说: 'hey, [it's you], it's you.' 当时拿着奖杯, 心情, 有一种莫名其妙的失落感.  
 07 YL [额额] [Huhhh]

## 訳文

- 01 ZX : 英語だから, それで, 私のあの発音, つまり, 周迅あの発音は, 外国人にとって, 発音 [しにくい].  
 02 YL : [発音し] にくい, はい  
 03 ZX : つまり, 私 (の名前を呼ばれた) 時, 全く -  
 04 (0.3)  
 05 YL : [誰か聞こえなかった, hhh]  
 →06 ZX : [聞こえても, 聞こえても分からなかった, うんうんうん], 私はそのまま待っていたのですよ. で, 那个, え, 私のあの通訳が [hey, it's you, it's you.] と言ったんです. トロフィーを持っている間, 気持ちが, 落ち込みました.  
 07 YL : [うんうん] [Huhhh]

断片8の前は、ゲストZXがパリで最優秀女優賞をもらったことについてのやりとりである。1-5行目において、ZXはパリで賞を受ける際に自分の名前は外国人にとって発音しにくい、呼ばれても全然分からなかったと言う。そして、(6行目)トロフィーを受けた後には気持ちが落ち込んだことを伝える。6行目で「那个(あの)」がターンの中間部に現れ、「然后(で)」及び「额(え)」など、いくつかのフィラーが連続して出現することから、言葉を探しているという心的操作を表していることが分かる。

## ② 記憶探し

## 断片9 (資料5から)

- 01 YL 在这之后演 那个, 嗯: 姜焯的:  
 02 (0.4)  
 03 YL [额:] 苏州河  
 04 ZX [>°苏州河°<]  
 05 ZX 恩  
 06 YL 那是一部很不一样的影片啦, 因为你演的那个女孩, 也是很边缘的, 很 [另类] 的这么一个女孩.  
 07 ZX [恩]

## 訳文

- 01 YL : これから演じた 那个, えー, 姜焯の:  
 02 (0.4)  
 03 YL : [えー] 蘇州河

04 ZX : [ >°蘇州河° < ]

05 ZX : うん

06 YL : あれは変わった映画ですね, あなたが演じた女の子は, ものすごく特殊な境遇にある, ものすごく [個性] を持っている女の子.

07 ZX : [うん]

断片9における「蘇州河」は映画の名前であり、姜焯はこの映画の監督である。YLはすでに公開された「蘇州河」を見たことあるいは聞いたことがあった。1行目の「那个(あの)」及び「嗯:(えー)」と伸ばして発音されている「的:(の:)」、2行目の0.4秒の間、そして3行目の「嗯:(えー)」から、YLは一生懸命その映画の名前を思い出そうとしていることが分かる。「那个(あの)」は記憶探しという心的操作を表していると考えられる。

#### 4.3.2.2 発話内容調整機能

##### ④ 補足説明

断片10(資料5から)

01 ZX 我记得有一场戏是: 巩俐有一场戏是, 额: 用她的手去推麻将牌,

02 YL 恩

03 (0.2)

04 ZX 就那个时候, 就觉得, 额, 手,

05 (1.1)

06 ZX 手也是可以有的.

07 YL 额::

08 ZX 对, 那个镜头印象非常非常深,

09 (0.9)

→10 ZX 那个就是从她的脸下来, 到手, 就然后把那个麻将牌推掉,

11 (0.6)

12 ZX 就觉得这是有气场的.

13 YL Huhhhhh

14 ZX 对

訳文

01 ZX : あるシーンは: 巩俐のあるシーンは, えー, 手で麻雀を押す

02 YL : うん

03 (0.2)

04 ZX : あの時, えーと, えーと, 手

05 (1.1)

06 ZX : 手のシーンもありますよ.

07 YL : え ::

08 ZX : そう, あのシーンは非常に印象深い.

09 (0.9)

→10 ZX : 那个, つまり, 顔から手に, それから麻雀を押して

- 11 (0.6)  
 12 ZX : すごいキャラだと思いました。  
 13 YF : Huhhh  
 14 ZX : はい

断片10では、ZX は非常に有名な女優の演技について語っている。8行目で「あのシーンは非常に印象深い」と言い、0.9秒の間をおいたのち（9行目）、「那个、就是说（あの、つまり）」と言いながら後方発話でZX は具体的に何が印象深いかを説明する。「あの」は補足説明をする後方発話の前触れとして働いている。

### ⑤ 修復

断片11（資料5から）

- 01 YL 你是每一次都特别特别投入的一个人。  
 02 ZX 对, 我没有办法, 就是说, 哦, 我看一会儿, 那种, [Huhh]  
 03 YL [Huhhh]  
 04 (0.2)  
 05 YL 但是因此也会比较容易受伤, 会不会下一次学得聪明一点。  
 06 (0.2)  
 07 ZX 学不会 Huhh  
 08 YL 想学会吗?  
 09 ZX 额: : 不想。  
 10 (0.2)  
 11 YL 为什么?  
 →12 ZX .hh 因为我觉得那种: 感觉是我很喜欢的。嗯, 我就是对感情毫无保留, 我特别纯粹的那个: : 感觉是我很喜欢的。

訳文

- 01 YL : あなたは毎回（恋愛に）とても没頭するタイプ。  
 02 ZX : はい, どうしても, つまり, あ, 恋をすると, そのように, [Huhh]  
 03 YL : [Huhhh]  
 04 (0.2)  
 05 YL : でも, より傷つきやすくなるから, 今度は（恋愛に対して）もっと冷静に対処することはできませんか。  
 06 (0.2)  
 07 ZX : できません。Huhh  
 08 YL : できるようになりたいですか?  
 09 ZX : え: : なりたくありません。  
 10 (0.2)  
 11 YL : なぜ?  
 →12 ZX : .Hh あの: (恋愛の) 気持ちがすごく好きだから, えーと, 恋愛に対してはいつもありのままの自分を見せて、特別に純粋な那个: : 感覚が私はとても好きなのです。

断片11の前の会話で、YLはZXの恋愛観について尋ねた。そして「あなたはいつも恋愛に没頭しているタイプだ」ということをZXに確かめる口調で述べ（1行目）、ZXはそれを肯定する（2行目）。YLが再び「より傷つきやすくなるから、今度はもっと冷静に対処するか。」と尋ねたところ、ZXは「できない。」（7行目）、「できるようにもしたくない」（9行目）、「恋愛に対してはいつもありのままの自分を見せたい、純粋な感覚が好きだ」（12行目）と答えて、自分の恋愛観を表明する。12行目の下線部「あの::」の前後の文脈に注目してほしい。日本語の訳文では特に違和感はないかもしれないが、中国語の語順は日本語の語順と異なるため、「那个::」の後半は前半と統語的に接続できない。即ち、ZXは前半で「我特别（喜欢）纯粹的感觉。（私は純粋な感覚がすごく好きだ。）」、「我（喜欢）特别纯粹的感觉。（私はとても純粋な感覚が好きだ。）」と言いたかったが、主語の後ろに動詞「喜欢」ではなく、目的語を出してしまった。そこで、「那个::」によって、後方発話の修復を行っている。

#### 4.3.2.3 対人関係調整機能

##### ⑧ ためらい

断片12（資料5から）

- 01 YL 为什么呢？得奖还有失落感呢？  
 02 ZX 那时候会明白，哦，得奖很开心。  
 03 YL 恩。  
 04 ZX 对，但是得奖还是要一样地去工作啊，去 -  
 05 YL 你打算不工作啊？[hhhhh]  
 06 ZX [不是不工]作，就是说没有什么改变。  
 07 YL 这次获奖的意义会更大一些吗？  
 →08 ZX 因为我，这么多年了嘛，那，额：也是：自己没有上过学校，啊，我的老师就是每个剧组的导演，对我来讲，这是一个比：上过学校的演员更深的肯定。

訳文

- 01 YL：なぜ？ 受賞したのに、なぜ何かなくなった感覚があるのです「か。  
 02 ZX：その時、分かったのは、あ、受賞したからともうれしかったのですが。  
 03 YL：うん。  
 04 ZX：うん、受賞しても仕事をしなきゃいけないじゃないですか、しー  
 05 YL：働かないつもり？[hhhhh]  
 06 ZX： [働かない] というものではありません。そこは何も変わっていません。  
 07 YL：では今回の受賞はあなたにとって何か意味があったのですか？  
 →08 ZX：だから、私が女優になってから、長い年月が経っています。那，え：それで：自分は専門学校へ行ったことがないんですね、私の先生は撮影チームの監督です。私にとって、これが、学校に通った俳優よりもっと積極的に認められた点なのです。

07行目で、YLは「今回の受賞はあなたにとって意味があったのですか？」とZXに尋ねる。ZXは、自分は専門学校へ行ったことはないが、監督が自分の先生であり、監督により積極的に認められたことを語っている。ここで注目すべきは08行目における「自分は専門学校へ行ったことがない」の前に「那（あの）」「额：（え：）」という2つのフィラーを挟み、また「也是：（それも：）」は、語尾が延びている点である。このことから、ほとんどの俳優が専門学校へ行ったことがあるのに対し、

自分は学校へ行っていないと告白することに対する躊躇感が窺える。

## 5. おわりに

本稿では、もともと指示詞からその用法を発達させ、指示詞とは性格と異なる機能をもつ「日本語「あの一」と中国語「那个 nage」を対象として、「情報処理能力表出機能」「命題内容調整機能」「対人関係調整機能」という三つの機能に分類して日中対照研究を行った。その結果、機能別に見ると、「あの一」と「那个 nage」ともに、指示詞用法を継承した「言葉探し」「記憶探し」という役割を果たす用法が最も多く使われているが、「命題内容調整機能」を持つ「あの一」と「那个 nage」の使用率は両者ともに一番低いことが分かった。「情報処理能力表出機能」と「命題内容調整機能」の割合を見ると、両者の差はあまり見られなかった。対人関係調整については、「注意喚起」「和らげ」「ためらい」という三つの下位項目において、「あの一」はほぼ同じ割合で使用されているが、「那个 nage」は「ためらい」という役割でしか用いられていない。つまり、「あの一」は聞き手の注意を喚起して会話をよりスムーズに進行させようとしている、または相手の気持ちを損ねることを妨げる、あるいは応答回避やプライバシーについての言いにくさを相手に察知させるという言語環境で用いられている。一方、「那个 nage」は単に話し手自身のことを公的に言いたくない時に使われる。また、「対人関係調整機能」の全体的な割合<sup>17</sup>から見ると、「あの一」の使用率は全体の約23%を占めるのに対し、「那个 nage」は「あの一」の二分の一しか占めていない。このことから、「那个 nage」は「あの一」と同様に指示詞からフィラー化したのが、対人関係を調整するフィラーとしては、「あの一」ほど広がっていないことが分かった。さらに、「あの一」は適切な表現を検索する発話に使用されるだけでなく、様々な言語環境に現れることが明らかになった。

ここでの結果から、「那个 nage」と「あの一」は、対人関係調整機能において最も相違が大きいことが分かった。日本語教育においては、日本語と中国語会話におけるフィラーの様々な用法を提示した後、対人関係機能における用法を日中の相違を明らかにしながら教授することが効果的だと考えられる。具体的な指導法の考察については、今後の課題としたい。

## 注

- 1 九州大学大学院地球社会統合科学府博士後期課程大学院生。
- 2 本稿は第36回社会言語学会研究大会での口頭発表に修正加筆を行ったものである。
- 3 小出（2009：34）を参考にして、フィラーの操作的定義を以下のようにする。
  - a 実時間的に発話やその他の行動に伴って現れる音声である。
  - b それ自身は命題的な内容を持たないし命題とのかかわりも持たない。
  - c 文のモダリティ要素でもないしモダリティ要素との関わりを持たない。
  - d 談話標識（談話の組織を形成する要素）でもない。
  - e 単独では文としての価値を持たない。
- 4 日本語のフィラーに関しては、これまでも様々な研究が行われてきた。まず、田中（1981）は、言いよどみ現象を「反復」「言い直し」「有声休止」「無声休止」「その他の言いよどみタイプ」に分類し、それぞれのタイプについての分布の特徴を明らかにした。談話管理論のアプローチでは、フィラーは、話し手の心的操作に関わるものとして扱われている（定延・田窪、1995；富樫、2002）。フィラーの機能に関しては、「時間稼ぎ」「発話権維持」「相手の注意を引く」「文

の調子を整える」「話を和らげる」などの機能を持っていることが提示された(塩沢、1979; 小出、1983; 水上・山下、2007; 中島、2011など参照)。会話分析からのアプローチでは、平本(2011)は、ターンテイキング組織化における「なんか」の働きについて、話題の境界部の後など特定の相互行為上の位置において、「なんか」を配置することにより重複に対する話者性の「弱さ」を示す、と指摘した。

中国語のフィラーに関しては、主に談話標識としての機能から分析が行われている。劉(2009)、刘(2009)、许(2008)、许(2009)の研究によると、中国語のフィラーは「話題管理」「修復・訂正」「言いよどみ」「話題開始」「話題転換」などの機能をもつ。

- 5 指示詞から由来した「そのー」「あのー」の機能については、東郷(2000)、小出(2009)参照。
- 6 中国人日本語学習者は中国語を第一言語とする日本語学習者を指す。
- 7 フィラーは意味的にも統語的にも発話文に影響しないため、音調に関わりなく、同じ機能を持つ。本稿では「あの」「あのー」「あの、」を「あのー」に統一する。
- 8 「那个 nage」「那个:nage:」「那个 nage、」を「那个 nage」に統一する。
- 9 山根(2002)は、フィラーの機能を「話し手の情報処理能力を表出する機能」「テキスト構成に関わる機能」「対人関係に関わる機能」に分けた。「テキスト構成に関わる機能」は書き言葉でくぎり符号が担う機能と同等であると述べている。本稿では、くぎり符号が入れない位置に出現するフィラーも扱うため、「テキスト構成に関わる機能」を「発話内容調整機能」にした。
- 10 東出朋氏が書き起こした会話データである。松村・王(2013)に収録されている。
- 11 筆者が書き起こしたデータである。データのトランスクリプトはJefferson(2004)に準拠する。
- 12 上下は上下関係を指す。
- 13 発話者が発話権を取ってから、相手に発話権を渡す(あるいは取られる)までの範囲を1つの発話とする。オーバーラップが発生したところを二つの発話と数える。
- 14 定延・田窪(1995)の「あのー」のついでに定義を参考にした。
- 15 「言葉探し」定義一部は小出(2009:17)参照。
- 16 「直接経験領域」は東郷(2000)を参照した。
- 17 表4参照

### トランスクリプト記号一覧

- (数字) 丸括弧内の数字はその秒数の間隔あることを示す。
- : 音声の引き延ばしを示す。コロンの数は引き延ばしの相対的長さを示す。
- [ 同時的重なるの開始時点を示す
- ] 同時的重なるの終了時点を示す
- hh 呼気音を示す。
- (h) 笑いながら発話が産出する際に(h)を挿入する。
- .hh 吸気音を示す。
- . 直前部分が下降調で区切りをついたことを示す。
- ? 直前部分が上昇調で区切りをついたことを示す。
- , 直前部分が継続を示す音調で区切りをついたことを示す。
- <文字> 前後と比べてゆっくりと発話を産出されることを示す。
- >文字< 前後と比べて速く発話を産出されることを示す。

- °文字° 前後と比べて音が小さいことを示す。  
 文字- 直前の発話が中断されていることを示す。

## 参 考 文 献

- 岡本佐智子・斉藤シゲミ (2004) 「日本語副詞『ちょっと』における多義性と機能」『北海道文教大学論集』5. pp.65-76
- 小出慶一 (1983) 「言い淀み」水谷修編『講座日本語の表現 [3] 話しことばの表現』pp.81-88 筑摩書房
- 小出慶一 (2009) 「現代日本語の意味・用法の広がりに関する記述的研究——多機能化、フィラー、フィラー化——」『日本アジア研究』6. pp.1-37
- 田中敏 (1981) 「日本語発話における言い淀み現象の分類と特徴づけ」『心理学研究』52 (4), pp.231-218
- 田窪行則 (1994) 「音声対話の言語学モデル——談話管理標識としての感動詞の分析——」『音声言語情報処理』1 (3), pp.15-22
- 富樫純一 (2002) 「談話標識『まあ』について」『筑波日本語研究』7. pp.15-31 筑波大学文芸・言語研究科
- 中島悦子 (2011) 『自然談話の文法——疑問表現・応答詞・あいづち・フィラー・無助詞——』おうふう
- 佐久間鼎 (1943) 『現代日本語法の研究』くろしお出版
- 定延利之・田窪行則 (1995) 「談話における心的操作モニター機構——心的操作標識『ええと』と『あの(-)』——」『言語研究』108. pp.74-93 日本言語学会
- 塩沢孝子 (1979) 「日本語の Hesitation に関する一考察」F. C. パン編『社会言語学シリーズ No.2 ことばの諸相』pp.151-166 文化評論出版
- 橋本進吉 (1948) 著作集『国語法研究』岩波書店
- 東郷雄二 (2000) 「談話モデルと日本語の指示詞コ・ソ・ア」『京都大学総合人間学部紀要』7. pp.27-46
- 平本毅 (2011) 「発話ターン開始部に置かれる『なんか』の話者性の『弱さ』について」『社会言語科学』14 (1). pp.198-209
- 松村瑞子・王丹丹 (2013) 『平成25年度日本語資料集』九州大学大学院比較社会文化学府
- 水上悦雄・山下耕二 (2007) 「対話におけるフィラーの発話権保持機能の検証」『Cognitive Studies』14 (4). pp.588-603
- 山田孝雄 (1936) 『日本語文法学概論』宝文館出版
- 山根智恵 (2002) 『日本語の談話におけるフィラー』くろしお出版
- 劉 轟 (2009) 「中国語の談話標識である『这个』・『那个』の機能について」『LSJ Proceedings』139. pp.192-197 日本言語学会
- Jefferson, Gail (2004) Glossary of transcript symbols with an Introduction. In G. H. Lerner (Ed.), *Conversation Analysis: Studies from the first generation*, Philadelphia: John Benjamins. pp.13-23.
- 刘丽艳 (2009) 作为话语标记的“这个”和“那个”、《语言教学与研究》1. pp.89-96
- 许家金 (2008) 汉语自然会话中话语标记“那(个)”的功能分析、《语言科学》7 (1). pp.49-57
- 许家金 (2009) 汉语自然会话中“然后”的话语功能分析、《外语研究》(2). pp.9-15

A Contrastive Analysis  
between Japanese and Chinese Demonstrative-type Fillers:  
With Special Reference to Japanese “ano” and Chinese “nage”

Xinyan GE and Yoshiko MATSUMURA

This paper, based on the analysis of conversation data from Japanese and Chinese interview programs, studied the discourse management function of “ano” in Japanese and “nage” in Chinese. It made both quantitative and qualitative analyses of the two fillers and found the following results. (1) “Ano” is used much more frequently than “nage”. (2) In the discourse management, “ano” facilitates “searching for words”, “searching one’s memory”, “softening”, “hesitation” and so on. On the other hand, it seems that “ano” is likely to appear in such specific utterance environments as “additional explanation”, “topic change”, “rephrasing”, “repair” and so on. (3) “Nage” mainly appears in the utterance environment of “searching for words” and “searching one’s memory” (which are originated from its demonstrative pronoun use) as well as “additional explanation” and “repair”. It has only the illustration of speaker’s “hesitation” marker.